

理事長あいさつ

今回のニュースレターでは、第7回総会(2022年度報告と2023年度計画)の様子をお届けしています。ことに今年度は国の動き(子ども家庭庁の発足や児童福祉法改正)に対応し「子ども・若者未来基金の独自性」を考え実施していきます。基金の中に「伴走者支援枠」を創設します。また児童福祉施設で生活する子どもたちの声の把握に努めていきます。今後とも、ちばこどもおうえんだんへのご理解とご協力をお願いいたします。

理事長 湯浅美和子

子ども・若者未来基金に新たな支援メニューが加わります。

「子ども・若者未来基金」は、2017年からスタートし、2022年度で6回目の給付を実施しました。この間、若者に対しての国の支援策も少しずつ変わり、民間を含め用意される支援の数も多くなってきました。様々な困難を抱える若者へ、社会の目が向きだしたことを歓迎したいと思います。しかし、その支援からこぼれる若者はいないのか、そんな若者たちを支援するにはどうしたらよいか、と組織の中で検討してきました。これまで「子ども・若者未来基金」は、新年度から就職や進学する若者たちを対象に直接支援をしてきましたが、実は、そこからこぼれる若者がいます。そこで、伴走者を対象とした新たな支援メニュー「伴走者の寄り添い支援(仮)」を導入することにしました。これまで若者に深く寄り添い、彼らの未来を少しでも明るくしようと奮闘している伴走者が、若者を自由に応援できるものになりたいと考えています。基金運営委員会での検討や自立援助ホーム職員の方たちからの意見を基に、現在枠組みをまとめています。ちばこどもおうえんだんには、大きなスポンサーはなく自立のための給付事業を行っており、その多くを市民の皆様からの寄付で賄っています。新たなメニューにどれほどの給付ができるのか不安です。しかし、今、困窮している若者を支援することの大切さを皆様にもご理解いただき、これからも基金へのご協力をお願いいたします。

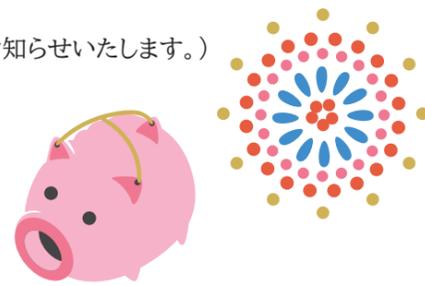
インフォメーション

ちばこどもおうえん広場 2023 が開催されます

11月5日(日) 場所: 千葉市子ども交流館 3階 アリーナ (詳細は、後日お知らせいたします。)
ちばこどもおうえんだんは、実行委員として参加しています。

シンポジウムを開催します

【第1回】若者たちに伴走者としてかかわっている方のお話を伺います。
日時: 2023年10月2日(月) 10:00~11:30 (9:45開場)
場所: 京北ホール(柏市柏1-4-3 京北ビル3階)
テーマ: 「社会的養護のこどもたちに寄り添って」



【第2回】千葉市子ども基本条例検討委員会の委員長である宮本みち子先生(子ども・若者未来基金運営委員会委員長)に、現在の国、そして千葉市の状況、子どもたちの権利をどう守るか、社会的養護の下で暮らす子どもたちに寄り添うとはどういうことなのかお話を伺います。

日時: 2023年10月22日(日) 14:00~16:30 (13:30開場)
場所: 千葉市文化センターセミナー室(千葉市中央区中央2丁目5-1)
テーマ「子ども基本法は社会的養護の子どもたちを守るか」
(詳細は、後日送付するチラシをご覧ください。)

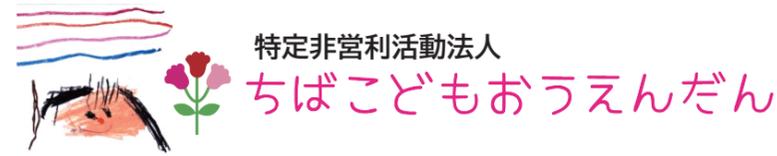


当団体への寄付は寄付控除の対象です

当団体への寄付は、確定申告を行うことで寄付金額の最大50%が税金より控除されます。詳しくは、お近くの税務署へお問い合わせください。

Twitter アカウント運営中

昨年ちばこどもおうえんだんのTwitterアカウントを開設し、運営しております。ちばこどもおうえんだんに関する最新情報を発信していきますので、是非フォローをお願いいたします。



ニュースレター 21号(2023年7月発行)
発行責任者: 理事長 湯浅美和子
会員数(2023年7月10日現在)
運営会員(正会員) 個人 13人 団体 5団体
おうえん会員(賛助会員) 個人 141人 団体 7団体
URL: <http://kodomo-ouendan.com/>

基金報告会 2022 を開催しました

児童養護施設「はぐくみの杜君津」施設長・高橋克己さんによる基調講演

「子ども若者未来基金 報告会 2022」を開催しました。(参加57名)
「はぐくみの杜の子どもたちの日々~社会的養護の現状と、わたしたちが考えなければならないこと~」をテーマに講演いただきました。高橋さんが児童養護に関わり始めた20~30年前、日本には「子ども若者が自分の意見を表明する場が与えられ、社会に反映され、そのことを子ども自身に伝える」というシステムが全くなかったそうです。当時の児童養護施設では「こどもの衣食住を守る」ことがメインミッションで、子どもたちは自分のことを人に話すという機会はなく、それをしたがることもなかったそうです。児童養護施設で育った子どもが、胸を張って自分の生い立ちを話せる環境を作りたいとの思いから活動を続けて、自立の支援まで25年費やしたとのことでした。今のはぐくみの杜の子ども約8割が虐待や不適切な養育を受けており、その子たちの見えない傷(不安と恐怖)に何度も包帯(安心・安全)を巻きなおしていくことが必要とされています。不安と恐怖の中で生き抜いてきた子どもに、はぐくみの杜のすべてのヒト、コト、モノで安心・安全感を少しずつ宿し、丁寧な家事とお世話、笑顔溢れる暮らし、適切な愛着関係によって「自尊心・誇り」を築いてあげたいとのことでした。最後に聞かせて頂いた「はぐくみの杜の子どもたち」の歌から高橋さんの優しいお人柄が伺え、とても印象的でした。



講演中の高橋克己さん

助成した若者3人からお話を聞きました。

登壇してくれた3名は、皆さん福祉関係の学校に進学されています。基金のことや日々の暮らし、将来の希望について伺いました。申請について、皆さん申請書を書くのが大変だったが、里親さんや施設のスタッフさんが手伝ってくれ、一緒に書き上げたそうです。面接の当日は大勢の面接官に囲まれて、皆さんとても緊張したようです。一人暮らしを始めて楽しいが、今まで考えたことは無かった光熱費のことなど「節約しなければ」と感じたり、通学や授業も長く疲れたり、高校とは違う環境に奮闘する様子がかうかがえました。将来の夢については、「広く福祉を学んで自分で道を決めたい」(Wさん)。「児童相談所の職員さんに支えられてここまで来られたので、今度は自分が支える方になりたい」(Oさん)。「いずれは起業したい」(Hさん)と頼もしい声を聞かせてくれました。最後にコーディネーターを務めて下さった田村光子さんの「夢は変わってもいいんだよ。困ったことがあったら、気軽に相談してね。」という言葉が心に残りました。



参加された方々の声

子どもの自立に向けては自己肯定感と他者に頼れることとありましたが、どちらも虐待を受けてきた子どもにとっては非常に難しいことだと思います。それを児童養護施設の生活で取り戻していくことは極めて素晴らしいことだと思います。

すばらしい若者の話が聞けてよかったです。学生さんたちがしっかりと自分の夢に向かって進んでいて感心しました。

高橋さんのお話、施設のスタッフの声を集めたビデオもよかったです。子どもたちの実態がわかりました

皆さんしっかりお話しされ前向きに学業に取り組んでいることがわかりました。つまづくこともあると思いますが、周りには助けを求めながら頑張ってもらいたい。応援する人を増やしたいです。

心のドアノブは外からはなく、子どもたちの側にしかないというのが一番心に残りました。

全て新鮮に感じ、当時者の話・声に共感を持ってました。基金の存在価値が聞けたのが良かった。

ご参加ありがとうございました!